

第14回予防接種に関する検討会
麻しんの排除に向けた今後の取組みについて

⌘ 沖縄県はしか“0”プロジェクト委員会の活動

1. 発足の経緯
2. 接種キャンペーン
3. 全数把握
4. 遺伝子レベルで診断
5. 発生時対応
6. 推進する体制

⌘ 今年の発生状況

⌘ 見えてきた課題

沖縄県福祉保健部
健康増進課 結核感染症班
系数公

1. 発足の経緯

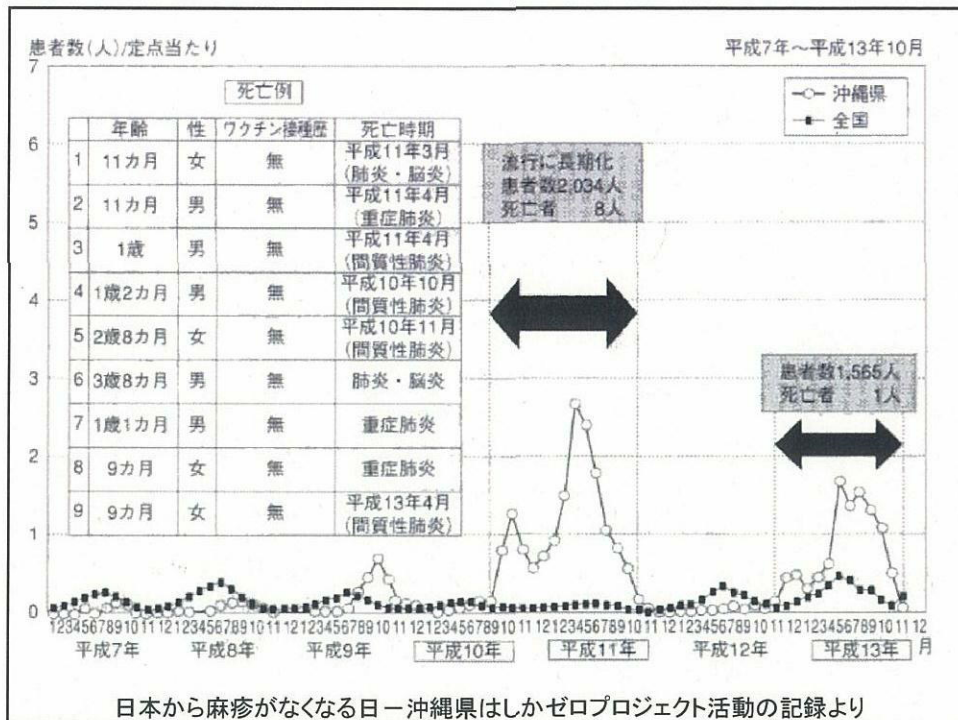
⌘ 2度のアウトブレイクを経験

- ☑ 平成10～11年: 患者数2034人、死亡者8人
- ☑ 平成12～13年: 患者数1565人、死亡者1人
- ☑ うち4例は1歳未満
- ☑ 全員ワクチン未接種だった

⌘ ワクチン接種率65.9%(平成11年)

⌘ 流行が続くと巡り巡って乳児が犠牲になる

⌘ 1歳児のワクチン接種率を2005年までに95%に



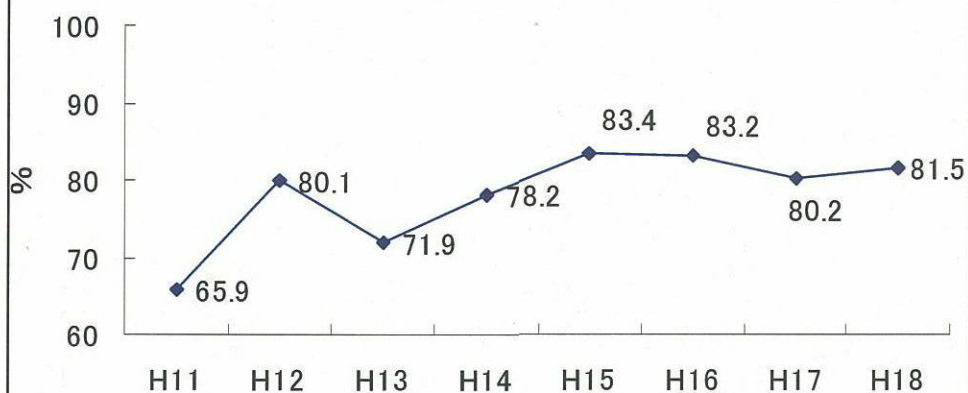
2. 接種キャンペーン

- ※ 予防接種率の向上が課題
- ※ 12-15カ月でワクチン接種が必要
 - ☑ お誕生日にケーキと予防接種を!!
- ※ はしか“0”キャンペーン週間創設
 - ☑ 平成14年6月(プロジェクト発足1年後)～
 - ☑ 公開シンポジウム
 - ☑ 日曜一斉接種の実施
- ※ 体制整備(広域化、無料化)への働きかけ
- ※ 保育所入所前等にチェック
 - ☑ 今後は就学時健診でのチェックが重要(課題)



接種状況の推移(沖縄県)

1歳児における麻疹ワクチン予防接種率の推移
(ただしH18は麻疹風疹混合ワクチン)



3. 全数把握

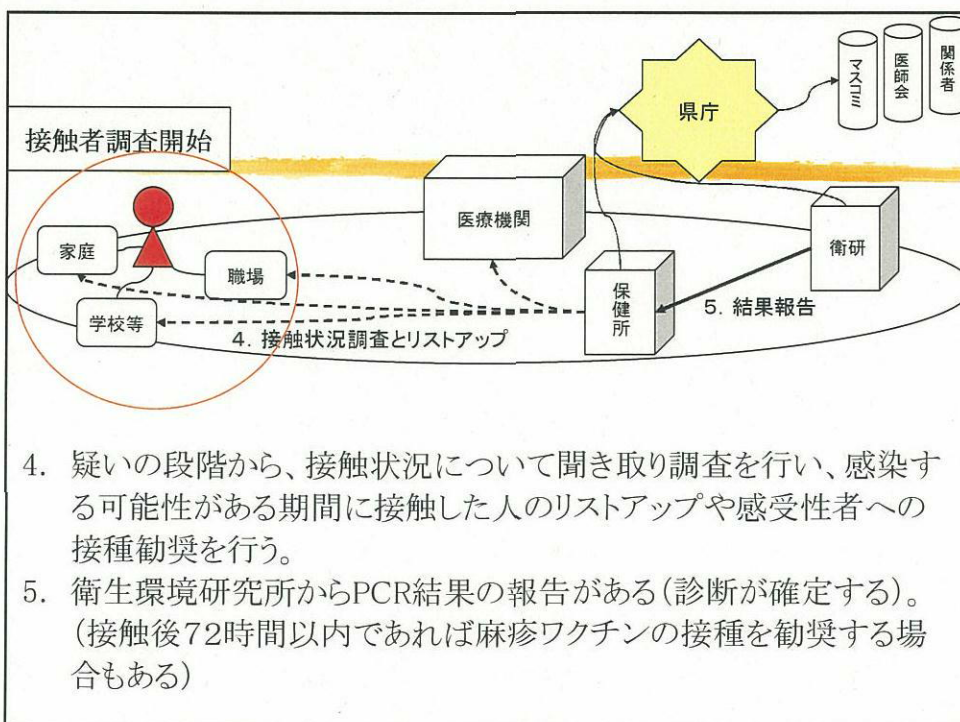
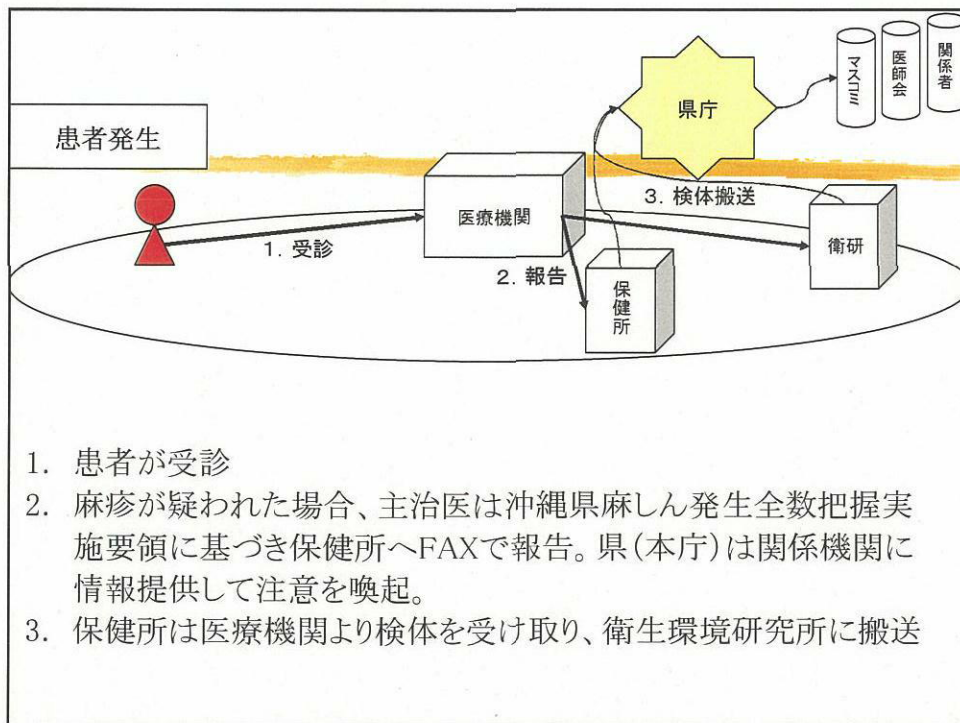
- ⌘ 定点(58カ所)だけでは把握できない
- ⌘ 麻疹発生全数把握実施要領(平成15年～)
- ⌘ 1例発生した段階から速やかに対応
 - ☑ 周辺の感受性者へ接種する
- ⌘ 小児科だけではなく全科を把握したシステム
 - ☑ 医師会向けに定期的な周知が必要
- ⌘ 迅速な診断に支えられている

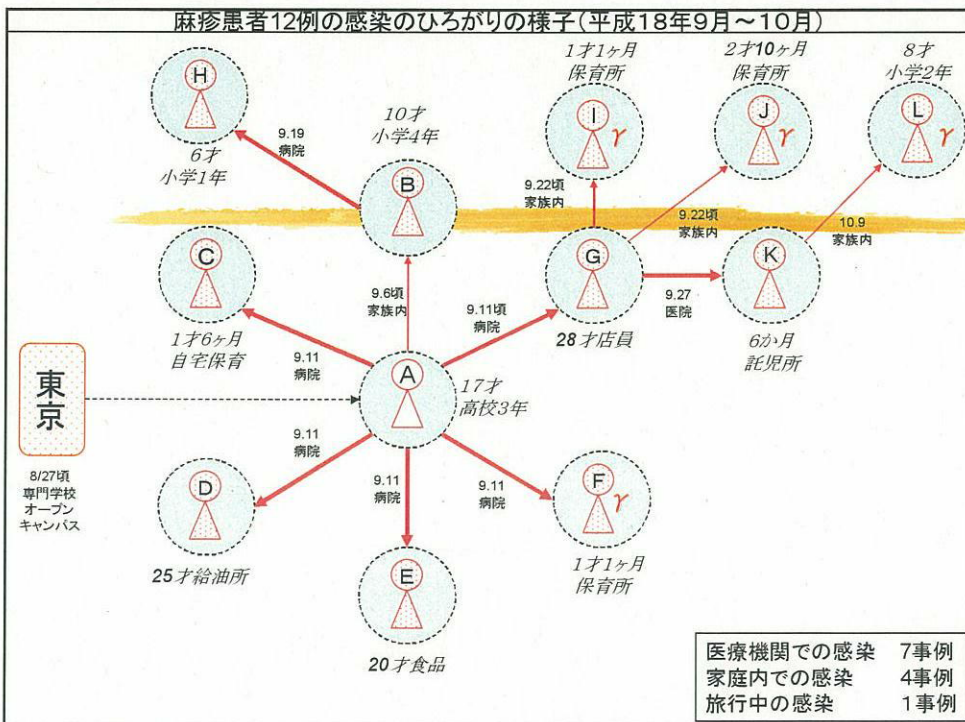
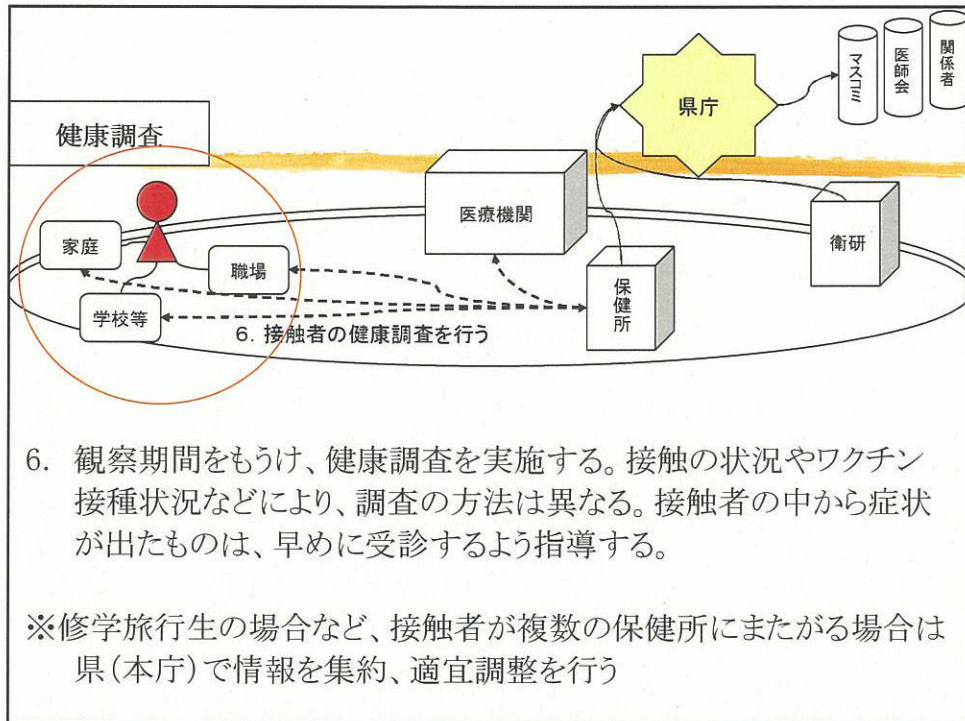
4. 遺伝子レベルでの診断

- ⌘ 沖縄県衛生環境研究所衛生科学班が実施
- ⌘ PCR検査(RT-PCR)
 - ☑ 検体搬入から14時間30分
 - ☑ 検体を提出→おおむね翌日には結果判明
- ⌘ 迅速な結果→効果的な追跡調査
 - ☑ 流行初期の段階で効果大きい
- ⌘ 最終診断は医師が総合的に判断
- ⌘ 何らかの届出基準が必要(課題)

5. 発生時対応

- ⌘ 沖縄県麻疹発生時対応ガイドライン
- ⌘ 流行状況をレベル分け
 1. 関係者へ情報提供&未接種者への接種勧奨
 2. はしか“0”プロジェクト緊急対策会議開催
 3. 県内で流行の兆しがあれば乳児(6~12カ月児)への予防接種勧奨・公費負担を検討
- ⌘ 感染拡大防止のために接触者を追跡
 - ☑ 保健所による積極的疫学調査





北部保健所の対応



⌘ 発生時ガイドラインに基づく対応

☑ 届出受理・検体搬送



⌘ 接触者の追跡 contact tracing

☑ 感染期間の推定(発症2日前～発疹出現後6日)

☑ 接触者リスト作成(繰返し聞き取り)

☑ 感受性者の特定(市町村予防接種台帳等で確認)

☑ 健康調査(情報提供、連絡して確認、情報管理)

☑ 健康観察は29歳以下を中心に行った

⌘ 接触者調査の対象者は合計1077名

6. 推進する体制

⌘ 沖縄県はしか“0”プロジェクト委員会

☑ 行政・医師会・広報・保育所・健診の小委員会

☑ 教育サイドにも声をかけている

☑ 事務局は(社)沖縄県小児保健協会

⌘ 官民一体となった取組み

⌘ 活動の「拠り所」

⌘ 新たな課題への対応

☑ 移入麻疹対策を検討



平成19年沖縄県の麻疹発生状況

- ⌘ 10例発生（9例がPCR検査で診断）
 - ☑ 疑い例も合わせると68例が報告されている
- ⌘ 幼児1例、10代3例、20代4例、30代40代各1例
- ⌘ 予防接種歴有りが4例（10代～20代）
- ⌘ 県外で感染があったと思われるもの8例
 - ☑ 関東、九州、四国など
 - ☑ 修学旅行中の発症（1校はその後休校へ）
- ⌘ 県内感染の2例は上記からの2次感染
 - ☑ いずれも早期に診断がついた

見えてきた課題

- ♥ 麻疹風疹混合ワクチン(MRワクチン)を1歳のお誕生日のプレゼントにしましょう
- 📌 2012年麻疹elimination に向けた麻疹対策のキャッチフレーズ“1人でたらずぐ対応!”
- 🏥 予防接種に関する政省令が改正されました
 - ☑ MRワクチンの2回目接種が実施されました
 - ☑ 麻疹単抗原ワクチン、風疹単抗原ワクチンが定期接種に再導入されました

- ⌘ 依然低い予防接種率
 - ☑ 接種勧奨を「強化」する必要がある
- ⌘ 全数把握の体制が必須
- ⌘ PCR等検査体制の充実
 - ☑ 迅速な対応、感染拡大防止につながる
- ⌘ 接触者調査の重要性（流行初期において）
 - ☑ 情報提供、健康観察が次の感染機会を減らす
- ⌘ 医療機関での感染拡大防止（トリアージ）
- ⌘ 麻疹を“0”にするという明確なメッセージを出す